

第14回狭山市民芸術祭 メインテーマ「愛」に

今年度の狭山市民芸術祭メインテーマは「愛」に決まりました。皆さんから心温まる愛で支えていただき、第14回狭山市民芸術祭が「愛」の溢れる事業になるよう頑張ります。

実行委員会を開催し役員・統括が決まりました。役員は皆若葉マーク。統括の方々や諸先輩方のアドバイスを受けながら進めていきます。

展示部門では、平成26年2月18日(火)～23日(日)の6日間、美術家協会・市民美術協会・狂言入間川を観る会・茶道連盟・いけばな連盟から素晴らしい作品が展示されます。

舞台部門では小ホール公演 22日(土)・中ホール公演 23日(日)共に、文団連所属団体が出演し舞台に彩りを添えます。

小ホール「世代を超えて」：新舞踊連盟・朗読研究狭山会・日本舞踊連盟・花咲会・雪吟会・民謡協会・オカリナクラブ・民謡プロジェクト・被災者支援プロジェクトの9団体

中ホール「つながる」：三曲連盟・和太鼓 桜・ジャズダンス MJS、ハワイアンパラダイス・フラフィオナニモエ/オリタヒチ・レファ の6団体

また、特別展示として、文化体験フェスタの児童作品展示、「気仙沼とともに歩む会さやま」の協力による被災地支援展示や、一般公募による作文展示等が予定されています。狭山市民会館から狭山市内外へ、狭山の文化・日本文化の素晴らしさを、そして愛をお届けいたします。皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

第14回狭山市民芸術祭 実行委員長 藤寿紫峰

暑さを吹きとばす熱演！

第33回 狭山市民謡協会「民謡のつどい」

猛暑の続く最中の8月25日(日)狭山市民謡協会の「民謡のつどい」が、狭山市民会館で開催されました。当日は幸い雨模様で暑さも一段落だったが、小ホールは年期の入った民謡好きの人達で、年一回の発表に笑顔と熱気に包まれていた。

今年は二会派が新加入、八会派100名近くが、独唱と合唱を自慢の喉で熱演、式典では文団連横山会長より日頃の文団連事業への協力の謝意と、民謡の継承がお願いされた。

午後は「手をつなぐ親の会」と、三鶴会の太鼓、正晃会の津軽三味線の合奏。民謡の本場、東北・新潟他、地方出身者が多く、全国レベルのコンクール入賞者もいてレベルは高い。締めは千寿会による「秩父音頭」の合唱、会主の唄声で盛況の中、閉幕しました。

狭山市民謡協会 高沢正夫



常任理事会便り

本年度の重点項目の一つに、市や他の団体との連携を掲げている。既に、PTA連合会、(社)狭山青年会議所との実質的な協力関係が始まっている。今後は文化をキーに、中央公民館や市民交流センター、生涯学習を進める市民の会などとの交流を深め、連携を密にしていく。

また、隔週一団体であるが、FMチャッピーで文団連所属団体をインタビュー形式で紹介してもらっている。お時間のある方はぜひ聴いて下さい。

FM 77.7MHz 「チャッピーアフター5」 第1・第3火曜日 17:35頃から10分間

小川事務局長